

日付:2016年1月31日／聖書:ヨハネによる福音書9:35～10:6

説教:「見えること、聞き分けること」

「イエスは彼が外に追い出されたことをお聞きになった」(35節)。「彼」とは、9章1節から出て来る生まれつき目の見えない障害を持つ盲人のこと。彼に対し弟子たちは、「この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。」この弟子たちの問いは、人々が普通にそう考えていたことである。イエスは「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである」と答えた。この言葉は慰めに満ち、愛にあふれた言葉である。この「神の業」とは、この後に癒しの業が成されて行くことを示しているが、しかし、本当の「神の業」とは、こういう癒しのことに重点が置かれる事よりも、彼が、「主よ、信じます」と言って、ひざまずく(38節)ことにある。本当の「神の業」とは、イエス・キリストに出会い「主よ、信じます」と言って、ひざまずくことへ導かれることではないだろうか。

ここでのメッセージは、イエスにお会いする、キリストを見るということにある。肉体の目の癒しという事とに、余り囚われてはいけない。キリストにお会いしているのに、キリストを見ることの出来ない不幸を表している。肉体の目が、たとえ生まれつき不自由ではあっても、キリストを見る事が出来ることの幸いを語っている。・・・ただ、私たちは、目の癒し、肉体の癒しを願うものである。癒されたらどんなに嬉しいことか。しかし私たちには、そのような癒しの力はない。キリストでなければそのような業は出来ない。この世で生きる事は様々な苦労は伴うが、しかし、キリストにお会いする、キリストを見る事が出来る幸いを、私たちにもくださっている事を覚えて、日々共にいてくださるお方と歩ませて頂こう。

知人から息子さんの話を聞いた。中学生になる息子さんは、ミッション系中学校で陸上部。その息子さんが部活で使う練習着をチームで決めるという時に、ほかの皆が迷彩柄を選んでしまったという。息子さんは「それになったら僕は、お母さんは買ってくれないと思う」と反対した。部活の先生に掛け合い「こんな戦いの服を着ないために僕はこの学校に来た」と申し出たが、余りピンと来ないのか、相手にされなかったようだ。すっかり疲れて帰宅し、悔し涙がぼろぼろこぼれて……。この息子さんは、部活の皆が見えないものを見、先生にも見えないものを見ていた。キリストの平和の視点に立つ時に見えるイエスのメッセージに気づかされたということであろう。彼にはキリストが見えていたのである。(神谷)